

《連盟沿革》

| 年 | 連盟の出来事 | 社会の背景 |
|----------------|--|---|
| 1971年 (S46) | 多摩市 誕生 | |
| 1973年 (S48) | 多摩市少年野球連盟誕生 | 第一次オイルショック |
| 1974年 (S49) | 春季、夏季、秋季の各大会を高学年、低学年の学童対象に開催される。 | 新百合丘～永山 京王よみうりランド～多摩センター開通 |
| 1979年 (S54) | 対外試合公式戦参加 | 第二次オイルショック |
| 1980年 (S55) | この年より「中学部」の大会参加が始まる。 | 市内17校がここまでに開校される。 81年は多摩市政10周年 |
| 1985年 (S60) | この年を最後に夏季大会がなくなり「春季、秋季」の二大会となる。 | つくば科学万国博覧会開催 |
| 1988年 (S63) | 会長杯が追加となる。 | 青函トンネル開通、多摩センター南大沢開通 |
| 1991年 (H3) | ハワイ選抜少年野球チーム来日 親善試合 新人戦が追加される。 | 多摩市政20周年 |
| 1992年 (H4) | 多摩市少年野球連盟、ハワイ国際交流親善遠征 | 学校の週5日制開始 |
| 1993年 (H5) | 夏季中学部を対象とするスポーツ少年団本部長杯を開催される。 | 多摩テレビ開局 |
| 2003年 (H15) | 中沢接骨院杯を学童底辺拡大の主旨で中沢院長の後援で開催される。 | 東海道新幹線の東京駅～新横浜駅間に品川駅が開業。 |
| 2007年 (H19) | 上記中沢接骨院杯が高学年、中学部も対象となる大会に拡大され、低学年は翌年の学童新人戦の参加決定大会と位置づけられる。 | 参議院選挙で自民党敗退、与党であつた民主党が参議院での過半数を獲得する。 |
| | 多摩市少年野球連盟として多摩市スポーツ少年団に団体登録され、連盟より同団体へ5名の役員を派遣する。 多摩選抜チームが発足され、学童においては府中選抜大会、西東京オープンの派遣大会へ25名をセレクションし決定派遣する。 中学部は会長杯神前大会に参加する。 尚、朝日新聞関連企業協賛により、選抜ユニフォームを製作した。 夏季、親善大会の名称を「第1回会長杯親善野球大会」に改名された。 また、多摩市学童のために「第1回 桜美林杯争奪東西対抗戦」が開催された。 | |
| 2008年 (H20) | 長きに渡りご尽力頂いた杉原会長が勇退。 後任として新牧理事長が新会長に着任。 高橋副理事長が理事長に就任する。 杉原前会長は連盟初の名譽職として「常任参与」として今後も連盟の指導役として就任される。 | |
| 2010年 (H22) | 任期満了の改選に伴い、高橋理事長が勇退。 後任に小泉事務局長が理事長に就任。 新事務局長に坂本氏が承認され、新牧会長以下3名が三役として承認された。 多摩市体育協会に加盟(4月) 連盟内別組織として「審判部発足」 連盟役員での組織構成とは異なる「機構改革」を行い、審判部長には松浦氏(スワローズ所属)が就任。 | |
| 2011年 (H23) | 3.11による「安全性と自粛世論」により、連盟としての活動を見合わせ、他市部の状況、行政との確認を踏まえて、5月以降に活動を再開した。 | 3月11日 東北大震災により多大な被害と犠牲が生じる。 日本全体が追悼の意による自粛・福島原発被害による電力不足など社会的に戦後最も厳しい試練が与えられる。 |
| 2012年 (H24) | 任期満了の改選に伴い、会長、理事長は留任。 坂本事務局長が副理事長に就任(兼務審判部長、渉外部長) 新事務局長として多摩ボーイズ金子氏が就任。 また、この年から常任役員の業務を「会計・企画広報」を除き「事務局次長」ポストに充て、「大会(中学部・学童)担当・報奨施設管理担当」など実務レベルでの業務分掌と役職に変更された。 | |
| 2013年 (H25) | 4月開催の第16回市長杯大会以降、翌年3月の全日本学豪多摩予選会まで、8野球大会を実施した。 市内社団法人の「自転車安全講習会」に後援団体として、選手、指導者200名ほど参加した。 連盟創立40周年記念式典を11月に挙行、記念誌を発刊した。 | 国体が東京開催になり、多摩市はサッカー、ハンドボール、スポーツ吹き矢の会場を提供した。 安倍政権の経済政策「アベノミクス」が始動した。 |
| | 4月開催の第17回市長杯大会以降、翌年3月の全 | 多摩市学校施設利用(校庭も含めて)が有料 |

| | | |
|----------------|--|---|
| 2014年 (H26) | 日本学童多摩予選会まで、8野球大会を実施した。小泉理事長が年度途中で勇退し、参与を委嘱。新牧会長が再選、金子理事長が新任、川田事務局長が新任し、坂本副理事長が再選、杉原名誉会長が委嘱された。 | 化される。 集团的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更を閣議決定した。 消費税8%に引き上がる。 |
| 2015年 (H27) | 市内大会に低学年対象とした理事長杯大会を新設し、4月に実施した。 年間9野球大会を実施した。 赤い羽根共同募金活動に私鉄線4駅にて協力した。 調布多摩親善新人戦を調布市と共催で新設し、11月に開催した。坂本副理事長が勇退した。 | 選挙権18歳に引き下げられる。 ラグビーのワールドカップイングランド大会で日本代表が南アフリカを34-32で逆転勝ちの金星をあげる。 フィギアの羽生結弦選手、グランプリファイナルで男子初の3連覇を達成した。 |
| 2016年 (H28) | 4月開催の第19回市長杯大会以降翌年3月開催の全日本学童多摩予選まで、9野球大会を実施した。新牧会長が再選、金子理事長が新任、川田事務局長が新任、杉原名誉会長勇退した。 調布、多摩、狛江親善ジュニア大会を3市共催で新設し、6～7月に実施、親善新人戦大会は狛江市が加わり、3市共催で11月に開催した。 | 4月14日、熊本地震が発生。死者150人を超えた。 8月に開催された夏季オリンピック・リオネジャネイロ大会で、日本は過去最多の41個のメダルを獲得した。 アメリカ大統領選、トランプ氏が当選。クリントン氏を破る。 |
| 2017年 (H29) | 4月開催の第20回市長杯大会以降翌年3月開催の全日本学童多摩予選まで、9野球大会を実施した。市内中学部クラブを統合し、連盟主導で多摩倶楽部を創設した。 連盟主催の中学生「会長杯親善大会」を廃止し、学童選抜の「桜美林学園杯親善大会」として桜美林学園の後援により新設開催した。 | 9月、陸上男子の桐生祥秀選手、日本人初の9秒98を記録し、9秒台の領域に入った。 将棋の最年少14歳プロ棋士、藤井聡太4段が破竹の29連勝し、連勝記録を更新した。 12月、日本ハムの大谷翔平選手、米大リーグのエンゼルスに移籍決定。 |
| 2018年 (H30) | 4月開催の第21回市長杯大会以降翌年3月開催の全日本学童多摩予選まで、9野球大会を実施した。3市共催親善大会に稲城市が加わりTOPBALL杯多摩川親善野球大会と名称を変更した。 新牧会長、金子理事長、川田事務局長が再選され三役に変更なし。 | 7月、西日本豪雨で、死者220人を超える米大リーグの年間最優秀新人選手（新人王）にエンゼルスの大谷翔平選手が選ばれた。投手と打者との二刀流で活躍した。 テニスの大坂なおみ選手が全米オープンで日本勢初の四大大会優勝を果たす。 |
| 2019年 (H31) | 4月開催の第22回市長杯大会以降、年度末3月までに9野球大会を主催実施した。 6月、多摩市ジャイアンツ多摩フェスタイベントを後援し、387人の参加者を動員した。 新牧会長が多摩市体育協会より40年以上に渡る永年統括指導功労に対し表彰される。 | 5月、天皇が即位され、「令和」に改元した。 8月、女子プロゴルフの渋野日向子が全英女子オープンで優勝。男女を通じて42年ぶり2人目の快挙。 9月、ラグビーW杯日本大会で、日本代表は予選リーグを突破、初の8強入りを果たす。 |
| 2020年 (R2) | 新牧会長が再選、川田理事長、津田副理事長、芦澤事務局長が新任した。金子理事長は勇退し、相談役を委嘱した。 新型コロナウイルス感染の予防対策により、前年度末から所属クラブに活動自粛継続を要請した。 | 新型コロナウイルス感染が世界中に蔓延した。 高校野球が春夏中止。プロスポーツ界でも延期や中止相次ぐ。 東京五輪・パラリンピックが1年間延期。 |
| 2021年 (R3) | 4月開催の第24回市長杯大会以降、年度末3月までに9野球大会を主催実施した。 多摩フレンズが10月の東京都学童軟式野球大会新人戦で準優勝。2010年の愛宕ヤンキース以来の準優勝。 | 新変異株「オミクロン株」、世界で感染拡大 4月、男子ゴルフの松山英樹が米マスターズ・トーナメントで初優勝。日本男子のメジャー大会制覇は史上初。 7月、第32回夏季五輪東京大会開催 11月、米大リーグのMVPに「二刀流」で歴史的な活躍を見せ |
| 2022年 (R4) | 新牧会長、川田理事長、津田副理事長が再任、平林事務局長が新任した。 多摩フレンズが8月に徳島県阿波踊りカップ全国学童軟式野球大会で優勝。（全国大会規模での優勝は東京代表の学童チームでは初の快挙） | 2月、第24回冬季五輪北京大会開催。 東京ヤクルトスワローズの村上宗隆が史上最年少（22歳）の三冠王に輝き、「村神様」が流行語大賞となった。 サッカーワールドカップカタール大会で、森保監督率いる日本代表は、強豪のドイツ、スペインを撃破し、ベスト16入り。 |
| 2023年 (R5) | 新牧会長が退任し、特別顧問に就任。 | 3月、WBCで栗山監督率いる日本代表チームが3大会ぶり3度目の優勝を果たす。 |

1993年までの記録は連盟30周年記念誌より引用し要所のみ掲載いたしました。